

令和5年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(清水地区)

開催日時	令和5年10月25日(水)午後7時00分から午後8時45分
場 所	清水ふれあいセンター
町民参加者	27人
町出席者	町長、教育長、参事兼企画総務課長、参事兼都市整備課長、地域防災課長、保険健康課長、商工観光課長、新東名対策室長、事務局3人

出席者からの主な意見や提案

〈テーマ：特に定めない〉

○清水橋付近の交通渋滞対策について、前回の座談会の際に町長から話があったがそれ以降進んでいないように思われる。現在、スマートインターチェンジのダンプ等の工事車両の通行が多くなっており、工事車両の車高が高いことから、その車両の後ろにつくと清水橋交差点の信号が見えない。安全協会などの関係機関に要望すれば、側面などの見やすい位置に信号をつけてくれるのではないかと。また、スマートインターチェンジの工事が進んでいるが、リピーターを呼び込む施策を検討しているのか。

○リピーターを獲得という面で、町の花であるやまぶきを植えるなど、花を植えて町を宣伝したらどうか。花は一度植えてしまえば、維持費がそれほどかからないと思うし、毎年見に来てくれるようになると思う。来ていただく方は高齢者が多くなることが予想され、消費もしてくれると思う。

○防災無線や個別受信機について不具合が生じており、声が割れてしまうなど聞き取りづらくなっている。また、約1年前からスマートフォンも通話がしづらくなっている。これは峰地区に電波の中継局があり、中継局と山市場地区の間に新東名の橋が建設されていることが、電波がつながりにくい原因になっていると思われるので、もしそれが原因であるのであれば、関係機関に要望していただきたい。自治会活動が多く非常に負担になっている。このままだと自治会長などの役員のなり手がなくなる懸念がある。自治会活動を見直し必要な活動だけを残し簡素化することも検討していただきたい。

○完成が令和9年度に延期となったスマートインターチェンジの開通については、清水地区でも好機として考えている。町からもプロジェクトチームを作って構想を練っているとのことであったが、構想自体が何も進んでいないように思う。周辺整備については、令和9年度にスマートインターチェンジが完成し、工事会社が撤退した後になるとのことだが令和9年度以降に話を進めても上手くいかないのではないかと懸念している。町はこの好機を逃さないよう施策を考えていただきたい。また、国道246号線について、休日は小山

町の方まで道が混んでいる状態なので、改修等の抜本的な対策を国・県に要望していただきたい。

○町の広報でポールウォーキングの案内があり、実際やってみたところポールウォーキングは姿勢も良くなり非常に歩きやすく、転びにくいことから高齢者にとっては非常に良い運動になると考えている。今後は谷ヶ公民館でも実施されるということで、皆さんもぜひ体験していただきたい。また、高齢者の健康維持については町でも力を入れていただきたいと考えているが、町の考えをお聞かせいただきたい。

○農業について、あと 15 年ほどでどんどん衰退してなくなってしまう懸念がある。特に中山間地域では数年であろうと考えている。地域でも高齢化が進んでおり、耕作地を遊休地にしたり放棄地にしたりといった現状もある。町の課題として「耕作放棄地や遊休農地」への対応とあるが、現在の町の考えをお聞きしたい。

○災害発生時において清水地区ではふれあいセンターが避難所となっているが、昭和 47 年の集中豪雨では土砂が埋まり、令和元年の台風 19 号でも 1 階和室に土砂が流入している。このような場所を町は避難所として良いと考えているのか。また、避難するにしても災害発生時にはふれあいセンターまでの道のりが危険であることから、町の施設に拘るのではなく、比較的安全な場所にある地域の公民館も避難所とすることも含めて検討いただきたい。